

青牛式トレードマスター講座

青牛の負けパターン

このコンテンツでは、私の負けパターンについて解説していきます。

青牛式トレードマスター講座では、「採用するパターン＝手法」を固定することを提唱しているわけですが、どれだけ洗練された手法であっても変動相場という不確実な世界では、負ける機会というのは必然として訪れます。

しかし、負けをただの確率傾向として片付けるのではなく、自分が採用する手法の弱点として客観的に把握することによって、更に高いステージへと登っていくことが可能になります。



青牛式トレードマスター講座

「勝ちに不思議の勝ちあり。負けに不思議の負けなし」とは、江戸時代の大名・松浦清が残した言葉ですが、勝ちに厳密な根拠を求めるように、**負けにも厳密な根拠は存在する**わけで、いかなる時も自身の技術を磨いていくためには、どういった取り組みが必要なのかということを内省していきましょう。

まず、私の負けパターンは大きく分けて4つあります。

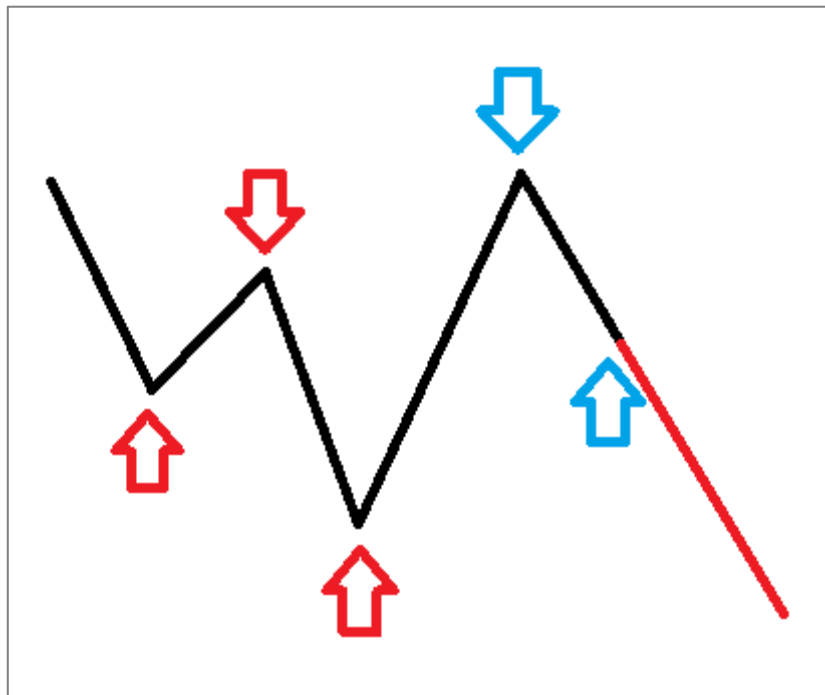
- ① 上位足 DTRD 下での下位足 TRD 転換
- ② 押し目買い場面
- ③ サイクルクローズボトム形成過程の下落場面
- ④ 上位足レンジ環境下での TRD 転換

この中でも、特に苦手意識が高いのが②の押し目買いなわけですが、なぜこういうことが分かるのかというのは、日々、トレードジャーナルの作成に取り組むあなたならよく分かるはず。

手書きのメモではなく、キャプチャ画像を用いた高精度な記録ほど人の記憶という曖昧な要素をカバーしてくれるものではありませんから、妥協することなく継続していきましょう。

青牛式トレードマスター講座

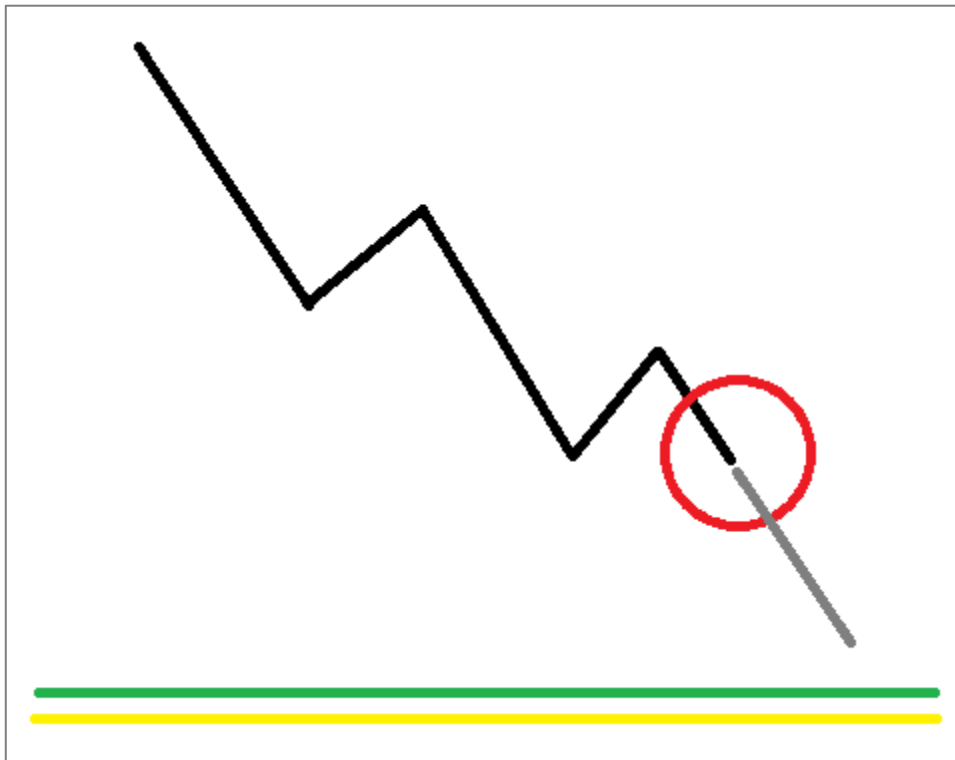
まず、これから説明する負けパターンについては、【Middle Set Up】で次の形になることで統一しています。



Higher-High が形成され、それを確定するための Higher-Low 形成場面での買い戦略が失敗するということです。

それでは負けパターンについて解説していきます。

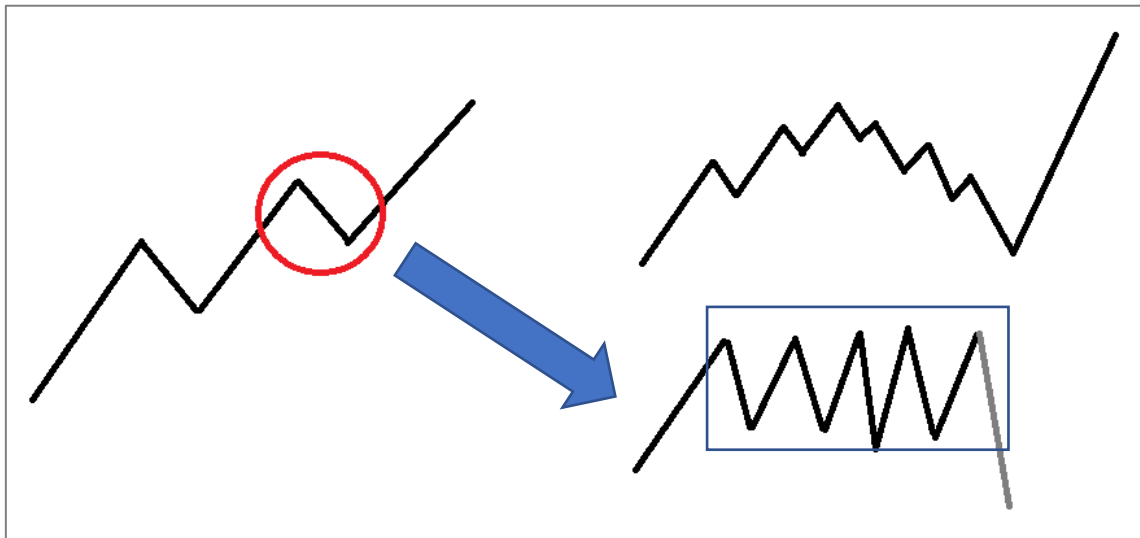
○負けパターン①・上位足 DTRD 下での下位足 TRD 転換



上位足が DTRD の環境下において、2 番底狙いなどで【Macro Set Up】、【Micro Set Up】で TRD 転換を狙いにいくと大抵の場合、新たな Lower-Low 形成の波として下落していきます。

また、下落していく先に共通認識性が高い D1、H4 の SPL がある場合には、かなりの確率で TRD 転換を否定しそのラインまで下落していくので、**共通認識性が高いラインを見極め、そこまで待つことを心掛けましょう。**

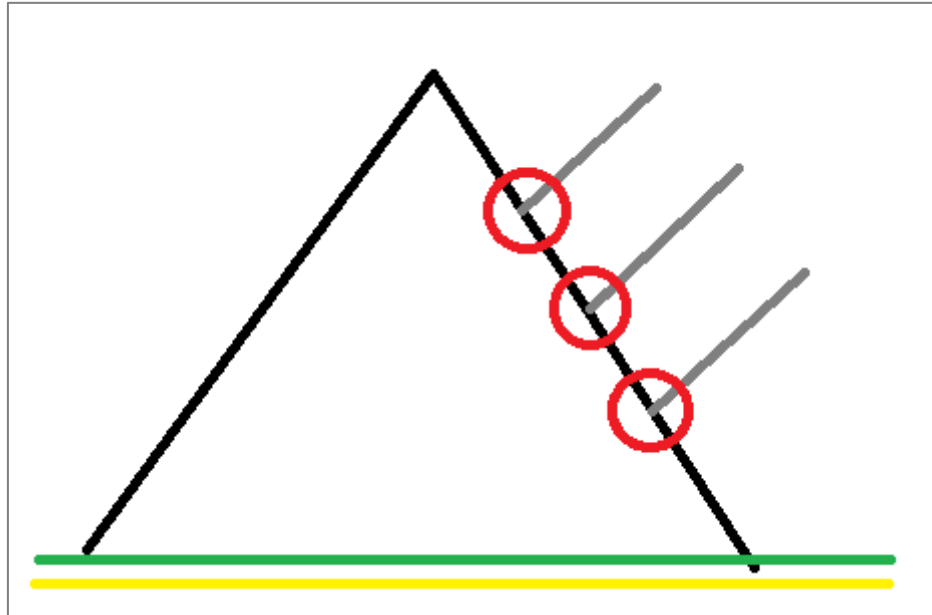
○負けパターン②・押し目買い場面



非常に感覚的な表現になるのですが、下落の前はボックスレンジをギザギザの波形で形成、上昇の前は弓形の波形になる傾向があると捉えています。

ただし、イラストのようなボックスレンジ形状の優位性が低いわけではなく、あくまで直近の RSL や上昇の起点となった SPL 等の**複合的な関係によってそのパターン自体の確度が決まる**ということをしっかりと理解しておきましょう。

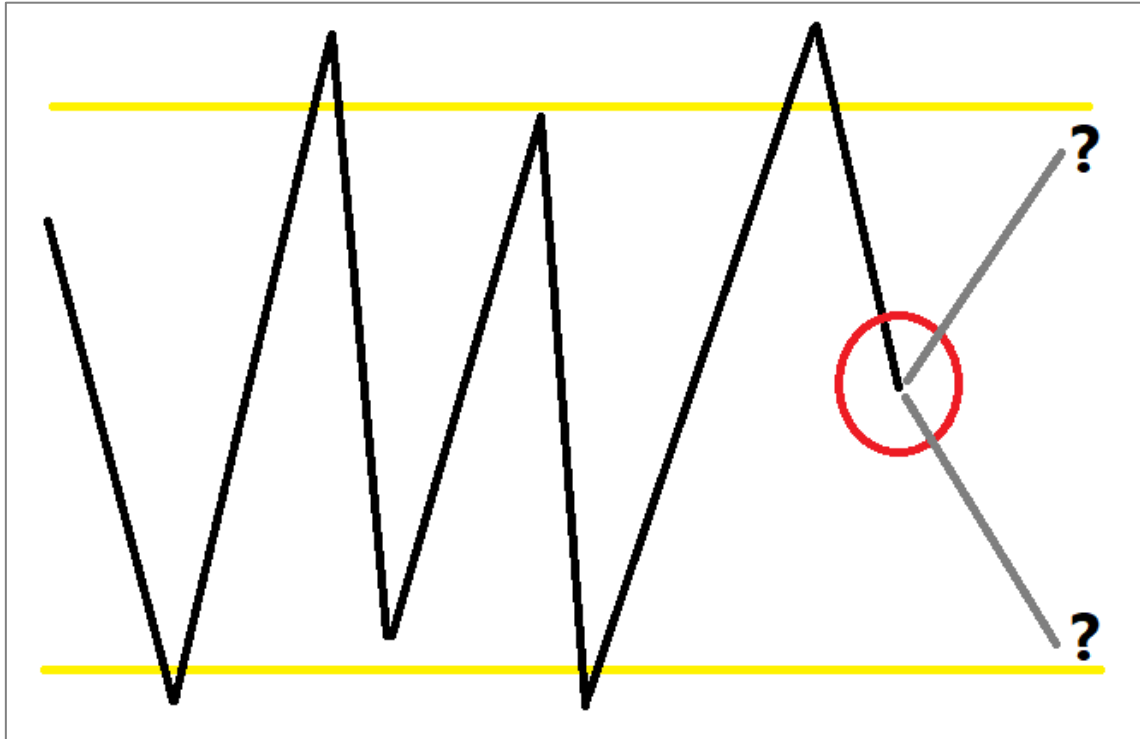
○負けパターン③・サイクルクローズボトム形成過程の下落場面



私の基本的なスタンスとして、「**値動きは、その価格の価値をもう一度試しに来る**」という仮説を立てているわけですが、下位足ではいくら巡行しそうな場面であっても、上位足でのダウ理論上の重要な価格が下に控えている場合には、ほぼほぼその価格帯まで落ちてきます。

だからこそ、このサイクルクローズボトム形成となる下落過程の買い戦略の優位性は低くなるのです。

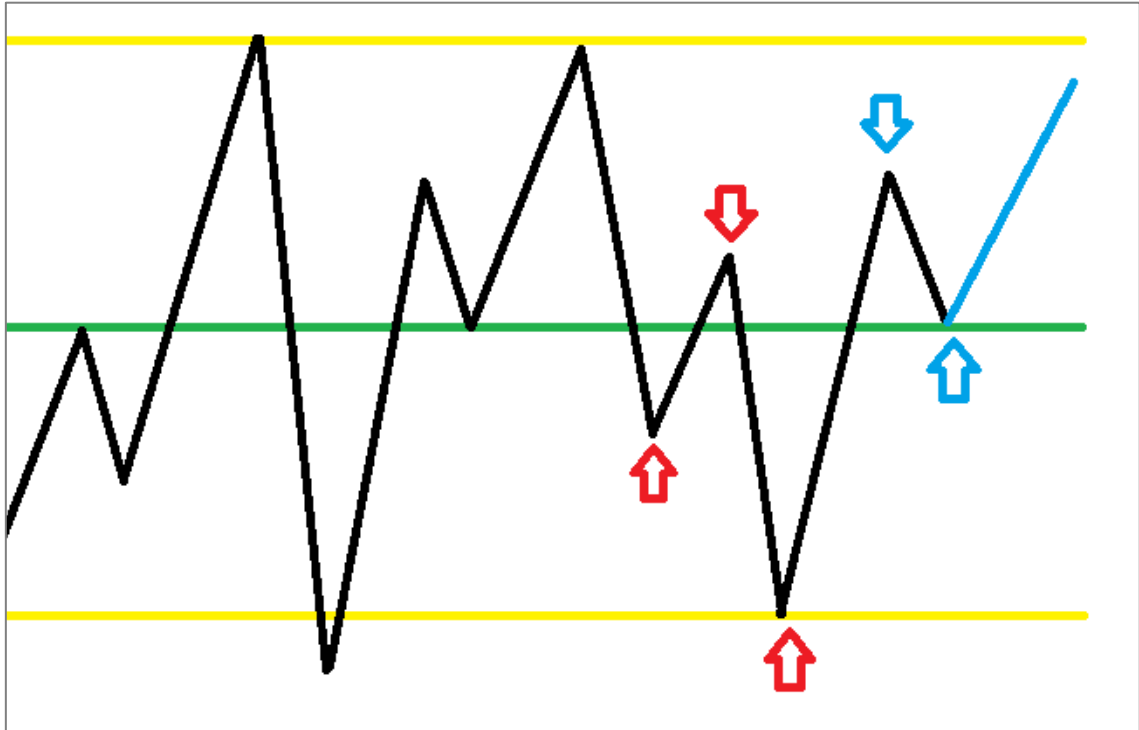
○負けパターン④・上位足レンジ環境下での TRD 転換



上位足背景に関わらず基本的にレンジというのは、基準となる高値と安値があり、その価格付近での売買に優位性があります。

なので、レンジ中央付近では、次に記す例外のケース以外は手を出さないようにするのが賢明です。

〈例外のケース〉



これはあくまで例外であることを、しっかりと理解して読み進めてください。

まず、日足レベルでの明確な UTRD 環境であること、レンジ中央付近に H4 レベルでの明確なラインがあること、RSL がすでに概ね 4 回以上試されていること、レンジが形成されてから横軸を消化しブレイクに近いなどの複合的な要素が重なって、初めてレンジ中央付近での TRD 転換に優位性が生まれるということを理解しておきましょう。

青牛式トレードマスター講座

いかがだったでしょうか。

勝ちパターン、負けパターン、問答無用の鉄板パターン、これらは誰かに教えてもらうものではなく、あなた自身がリアルトレードの経験を蓄積していく過程で、自分自身や採用している手法と向き合い磨き上げていくもの。

安易な気持ちで取り入れた他人の情報などは、無用なバイアスをかけるだけで百害あって一利なし。自分で採用した手法とその強み、弱みを自分自身の手で確かめていきましょう。

これまでに幾度となく伝えていますが、トレーディングスキルを磨いていく過程における経験蓄積の根幹は、あくまで「高精度なトレードジャーナルを一貫して継続すること」以外にはありません。

いかに一貫性と継続性を高い次元で維持し、愚直に行動を続けることができるか。

これが、今、そしてこれからもあなたに求められている姿勢です。

青牛式トレードマスター講座

刻一刻と変化するチャートから厳密な根拠を導き勝ちトレードを築くだけでなく、**負けトレードからも厳密な根拠を見出し**自身のトレーディングスキルを磨いていきましょう。

あをうし

